

地球温暖化と感染症について

感染症とは、微生物が体内に侵入し感染することによって起こる病気の総称と定義されます。ウィルスや細菌などの病原体が、野生動物や家畜などの自然宿主から蚊やダニなどの媒介動物を介して、飲料水や食物を介して、あるいは人から人に直接侵入するために起こる病気です。

いくつかの感染症は、温暖化との関連性が示唆されています。現時点までに何らかの影響がはっきり確認された訳ではありませんが、マラリア、デング熱などは、媒介動物の蚊の分布や個体数が増加する可能性があります。ウエストナイルウィルスのように、自然宿主である鳥類の分布や渡り経路が温暖化で変わることにより、感染症にかかるおそれのある地域や時期が拡大する可能性も考えられます。また、冬季の低温が上昇することが、昆虫などの分布に大きく影響します。温暖化やヒートアイランドなどが進むと、感染症を媒介する昆虫を始めとするさまざまな害虫の分布が、北方に拡大する可能性があります。建築物や生活様式の変化によって、建物内の冬期の温度が高くなっていくことが、この現象を助長する可能性があります。

感染症にかかりやすい条件

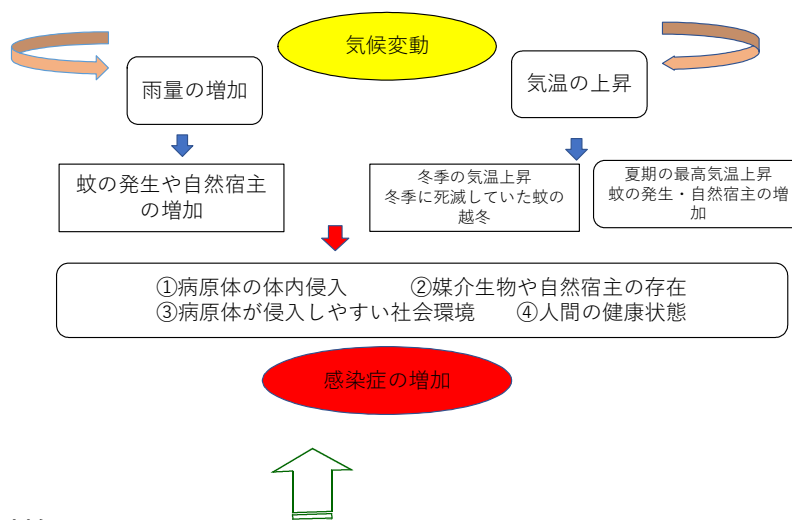
- ・人の体に侵入する病原体の数や侵入の機会が多い
- ・病原体の自然宿主や媒介する生物（媒介生物）が多い
- ・病原体が侵入しやすい居住空間や生活様式である（ウィルスや媒介動物などと接触しやすい）
- ・公衆衛生の状態がよくない（栄養、衛生状態が悪い）



感染症と温暖化の関係

- ①アフリカのリフトバレー熱
 - ・感染した羊、ヤギなどを蚊が吸血し、その蚊に刺された人にも感染。温暖化で雨量が増加すると蚊も増加し、人の感染も増加する可能性も考えられる。
- ②アメリカ大陸のハンタウィルス肺炎症候群
 - ・ネズミなどのげっ歯類のフンや尿に排泄されたウィルスを人が吸い込むことで感染。温暖化で雨量が増加するとネズミの餌も増加し、人が感染する率も増加すると考えられる。
- ③コレラ菌
 - ・コレラ菌は海水中のプランクトンと共生しており、海水温が上昇してプランクトンが増殖すると、コレラ菌も増加することが予想される。
- ④デング熱
 - ・日本ではヒトスジシマ蚊が媒介すると考えられており、この蚊の分布域は年平均気温が11℃の地域とほぼ一致しており、その地域は年々北上している。

温暖化と感染症（環境省）



この問題への対処

①環境教育の現場で

・子どもたちが集団生活をする学校の間では、感染症の予防が特に重要です。温暖化しなくても重要となる感染症対策の基本として、身の回りを清潔に保つことや病気の予防について、小学校から高校まで体系的な教育が行われています。例えば、正しい手洗いの方法について、洗い残しの病原菌をチェックする実験を組み合わせた手洗いなどが活用されています。また、生活環境（換気などの生活環境）を整えることの大切さや病気の予防（病気は、病原体、体の抵抗力、生活行動、環境が関わり合って起こること、病原体が主な要因となって起こる病気の予防には、病原体を体に入れないことや病原体に対する体の抵抗力を高めることが必要であること）などを学んでいます。

②家庭での取り組み

・媒介動物の発生するような場所を身の回りに作らないこと（蚊が発生しやすい水たまりなどを作らない）
 ・海外に渡航する場合に注意すべき対策を講じることや、帰国後に具合が悪くなったり「おかしいな」と思ったら、早めに医師の診断を受けて海外に行ったことなどを説明する。

③政府による取り組み

・近年、グローバル化に伴う膨大な人と物の移動、土地開発に伴う自然環境の著しい変化など、人間社会の変化と人間の行動の多様化に伴って、動物から人に感染する動物由来感染症や、海外渡航者が罹患して帰国することで国内に持ち込まれる、いわゆる輸入感染症など、新しい感染症が問題になっています。これらの新しい感染症に対しては、予防、水際での防止、治療を含め、発生時の迅速な対策など、各場面での様々な対策が重要です。もちろん根本的な温暖化防止の対策を講じる必要もあります。